

様式(細則 6-2)

令和 7 年 1 1 月 2 1 日

浜田市議会議長 澁 谷 幹 雄 様

議員名 芦 谷 英 夫

調 査 研 究 活 動 報 告 書

下記のとおり調査研究のため視察研修を行ったので報告します。

記

- 1、研 修 名 「認知症になっても心は豊かに～今を大切に生きるヒント～」
- 2、受講の目的（市政との関連など） 認知症施策は喫緊の課題であり、先進例に学び、市民活動の状況などの調査研究を行い施策の推進を図る。
- 3、日 時 令和 7 年 1 1 月 8 日（土） 1 4 時～ 1 6 時
- 4、経 費 バス代（浜田～広島往復） 5, 8 4 0 円
JR代 8, 4 0 円（広島～あき亀山往復）
駐車料 4 0 0 円広島市（安佐市民病院）
- 5、研修のポイント・議員活動や市政への反映など
認知症家族の状況、それに対する地域社会の対応など知見者から学び、行政として認知症など高齢者福祉推進政策のあり方、浜田市の取り組みについて考察する
- 6、研修内容 別紙のとおり



市民公開講座「認知症になっても心豊かに～今を大切に生きるヒント～」

令和7年11月21日

1 日 時 令和7年11月8日（土）14時～16時

2 会 場 広島市（安佐市民病院）

3 講 師 南高まり精神保健福祉士 山下拓史広島市北部認知症疾患医療センター長

4 概 要

- ① 認知症専門医 故長谷川和夫が開発した「長谷川式認知症スケール」は、一般の高齢者の中から認知症の可能性のある人を、スクリーニングするための簡易的な認知機能テストで、記憶を中心とした大まかな認知機能障害の有無を調べる目的で用いられ、多くの医療機関で信頼性の高い評価方法として活用されている。
- ② 故長谷川和夫と長女南高まり精神保健福祉士との最期の1年を母とのやり取りも交えての講演で、身内として切実な心の内までのお話をされ、誰もが無関係でいられない「認知症」に対して、家族としてどう向き合っていくか、そこから学ぶべきことなどお話された。
- ③ 認知症は早期発見が大切で、認知症の兆候に気づくことで、最近の出来事が思い出せない、物を置き忘れる、同じ質問をする、怒りっぽくなる、楽しみだった趣味などを突然しなくなるなどがあり、介護予防は活発な生活をするにある。
- ④ 認知症を予防する生活習慣として、食事や食習慣の改善、積極的な運動習慣、脳を活性化するトレーニング、楽しく集中できる趣味などを日常生活の中に取り込むことが大切である。
- ⑤ （南高まり氏）認知症の人と接するときは⇒こちらから名乗る、認知症の人の現実を受け入れる、認知症の人と争わない、認知症の人の現実を気にしない、箸が使えなかったら手でつまむ食事にする、認知症の人の手を握って話を聞く、ときにはハグする、子どものように扱わない、これまで好きだったことを出来るよう手助けする、昔の話を聞かせてと言う、落ち着かないときには時間をかける。
- ⑥ ⇒自分がされたいように認知症の人に接する、お腹がすくと怒りっぽくなり軽食やおやつを用意しておく、認知症の人がいないかのような会話はしない、認知症の人が暮らせる場所を選び探す、ケア施設に入所したら会いに行く、名前・出来事・場所を間違えても怒らない、好きな音楽を流してあげる、物を拾ってきたら一緒に元の場所に戻す、仲間外れにしない、認知症の人を忘れない、ことである。（「認知症の人に接する時の心がけ」）
- ⑦ （山下拓史センター長）認知症は予防可能45%、予防不能55%、リスク不明5%とされ、予防可能因子は、教育の質、難聴、高LDLコレステロール、うつ、頭部外傷、身体活動不足、糖尿病、喫煙、高血圧、肥満、過度のアルコール摂取、社会的孤立、大気汚染、矯正されていない視力低下などであり、予防可能因子を克服することが重要である。

5 所 感

- ① かつて認知症は痴ほう症と呼ばれていたように、偏見と差別、社会からの孤立や疎外、無理解があり、このことが症状をさらに悪化させる要因にもなっていたが、地域社会

のあり方として、「認知症の人に接する時の心がけ」的なことを地域文化として広める必要がある。

- ② この講演会の参加者は、高齢者いきいき活動ポイント手帳を持参しており、これは「高齢者いきいき活動ポイント事業」として、広島市在住の65歳以上の高齢者が、自らの健康づくりや地域支援などの活動を奨励し、活動実績に応じて奨励金が支給されるもので、参考とすべき事業である。
- ③ 浜田市は認知症サポーター養成講座を実施しているが、事後の情報提供がないなど形骸化している。認知症サポーター、認知症地域支援推進員などにより認知症活動支援を行うチームオレンジを設立するとしているが、現在その数は2にとどまっている。
- ④ 市の高齢者福祉計画では、高齢者クラブへの活動支援としているが、高齢者クラブ数は激減しており、協働のまちづくり推進、まちづくり推進委員会の組織化にあわせ高齢者部会の設置など、高齢者の地域での位置づけ、活動を広げる環境と条件をつくる必要がある。

—以上—



市民公開講座「認知症になっても心は豊かに」（安佐市民病院）